

本シンポジウムでは、ノルウェーベルゲン市からハンセン病医療政策の歴史研究を行っている3名を招き、ノルウェーのハンセン病隔離政策と患者の人権に関する議論の歴史の変遷を紹介していただく。ノルウェーベルゲン市は、19世紀後半、らい菌を発見したアルマウェル・ハンセン医師の活躍した地であり、ノルウェーは疫学を基礎にし、20世紀前半にはハンセン病医学、医療を国際的にリードしてきた。ノルウェーからの特別講演をふまえ、パネルディスカッションでは、日本の元患者、法曹、医師らとの議論を通して、日本におけるハンセン病医療政策の歴史的特徴と今後の課題を明らかにする。

国際ハンセン病政策シンポジウム(第二回) ハンセン病医療政策と 患者の人権

日本とノルウェー

第一部 ノルウェー特別講演

① Yngve Nedrebø (在ベルゲン国立アーカイブス)

患者の権利からノルウェーの
ハンセン病隔離政策を問う

② Sigurd Sandmo (ハンセン病博物館)

国際的視点から捉える
ノルウェーハンセン病政策とスティグマ

第二部 パネルディスカッション

テーマ

ハンセン病医療政策と患者の人権
—日本とノルウェーの相違

Arne Skivens(ベルゲン市立アーカイブス所長)

Yngve Nedrebø(在ベルゲン国立アーカイブス所長)

Sigurd Sandmo(ハンセン病博物館)

宇佐美治(ハンセン病元患者、長島愛生園在園者)

徳田靖之(らい予防法違憲国賠訴訟弁護団長)

筋昭三(城北病院名誉院長)

(司会)井上英夫(金沢大学教授)

日時：2010年1月23日(土) 13:00~17:00

会場：金沢市文化ホール大会議室(地図は裏面にあります。) 主催：金沢大学・国立ハンセン病資料館

後援：全国ハンセン病療養所入所者協議会、ノルウェー王国大使館、石川県、金沢市、小松市、能美市、内灘町、川北町、津幡町、中能登町、野々市町、石川県医師会、金沢市医師会、石川県保険医協会、石川県薬剤師士会、金沢市薬剤師士会、石川県看護協会、石川県社会福祉協議会、金沢市社会福祉協議会、ハンセン病支援・ともに生きる石川の会、石川県社会保障推進協議会、医療・福祉問題研究会、朝日新聞金沢総局、毎日新聞北陸総局、読売新聞北陸支社、北國新聞社、中日新聞北陸本社、北陸朝日放送、北陸放送、石川テレビ放送、エフエム石川 他

問

金沢大学「人権保障と感染症に関する国際プロジェクト」代表 井上英夫(担当:鈴木 静)

E-mail ssuzuki@staff.kanazawa-u.ac.jp FAX 076-264-5405

開催 趣旨

現在、全国に国立13、私立2のハンセン病療養所がある。熊本地裁判決によって断罪されたハンセン病「強制絶対隔離絶滅政策」は、療養所を主要な舞台として行われたものであるが、日本国家、そして社会、とりわけ医学界の「原罪」としてとらえられるべきものである。ハンセン病患者、元患者(回復者)、そして家族の被った被害は、それなくしては人間として生きていけない権利として憲法で保障されている基本的人権が初奪され、侵害されているからこそ重大であり、深刻なのである。ハンセン病政策のような誤った感染症政策を再びくりかえさないために現在必要なのは、ハンセン病政策の歴史を基本的人権の視点から問い直し、どこが、どのように間違っていたのか、何が問題なのか、過ちについて誰に責任があるのかを問うことである。

ノルウェーからハンセン病政策歴史研究者らを招へいし、地方都市である金沢から全国に向けて人権保障の立場からの発信の機会が初めてである。

なお、本シンポジウムは、科学研究費基盤研究(B)「人権保障と感染症政策—ハンセン病政策の日、諾、中の比較調査研究」(2009年~2011年、井上英夫代表)による研究助成を受けて開催されるものである。

【スケジュール】

13:00 開会挨拶 中村 信一(金沢大学長)

13:10 第一部 特別講演

テーマ 「ノルウェーにおけるハンセン病医療政策の過去と現在」

Yngve Nedrebø (在ベルゲン国立アーカイブス所長)
「患者の権利からノルウェーのハンセン病隔離政策を問う」

Sigurd Sandmo (ハンセン病博物館)

「国際的視点から捉える
ノルウェーハンセン病政策とスティグマ」

14:40 休憩

14:50 第二部 パネルディスカッション

テーマ 「ハンセン病医療政策と患者の人権—日本とノルウェーの相違」

Arne Skivens(ベルゲン市立アーカイブス所長)
Yngve Nedrebø(在ベルゲン国立アーカイブス所長)
Sigurd Sandmo(ハンセン病博物館)
宇佐美治(ハンセン病元患者、長島愛生園在園者)
徳田靖之(らい予防法違憲国賠訴訟弁護団長)
筋昭三(城北病院名誉院長)
(司会)井上英夫(金沢大学教授)

【特別講演およびノルウェー人パネラー紹介】

本シンポジウムで招へいするノルウェー人研究者は、「レプロシー・アーカイブス オブ ベルゲン」(The Leprosy Archives of Bergen)メンバーである。ベルゲン市には、数世紀にわたるハンセン病政策関連資料が豊富に保存されており、ユネスコ「世界の記憶」にも登録されている(2001年)。この豊富な資料を一元的に管理し、現在でも疫学的視点から政策研究を続けているのが「レプロシー・アーカイブス オブ ベルゲン」である。研究成果の一部は、「Lepra」(Selja Forlag, 2006年)として公表されている。今回は、この中心メンバー3人を招へいする。

① Yngve Nedrebø (在ベルゲン国立アーカイブス)

1954年生まれ、国立アーカイブスベルゲン支部所長。
疫学的視点からハンセン病政策における患者の人権等を研究している。

② Sigurd Sandmo (ハンセン病博物館)

1971年生まれ、ベルゲン市にあるハンセン病博物館学芸員、IDEAノルウェー代表。歴史学観点からノルウェーのハンセン病政策の特徴等を研究している。

③ Arne Skivens (ベルゲン市立アーカイブス)

1947年生まれ、ベルゲン市アーカイブス所長。
資料保存の専門家として、医学、医療文書の歴史の変遷を研究している。

通訳 Åge Vallestad (ベルゲン市職員)

1962年生まれ、建築家、ベルゲン市建築基準課勤務。

【会場案内図】

